

**放送日** 平成30年4月10日（火）

**担当者** 市長 上野 正三

おはようございます。市長の上野正三です。

今日は、日本ハムファイターズ・ボールパークのお話です。

皆さんご存知のとおり、3月26日、きたひろしま総合運動公園予定地が、北海道日本ハムファイターズ・ボールパーク候補地として内定しました。平成28年12月20日に誘致に向けた提案書を提出して以来、17回の実務者協議を重ね、ボールパークの基本理念やビジョンを共有してまいりました。

そして、市民の皆様の熱い思い、誘致期成会の活動、シンポジウムなど一体となって取り組んでいただいたことが、内定理由の1つと伺っています。市民の皆様、関係した職員の皆様のご努力に心より感謝申し上げます。

ボールパーク構想は、北海道の新たなシンボルとなる空間を創造するものであり、本市にとりましても、市民の皆さまや次代を担う子ども達に夢と希望を与えるとともに、まちの誇りや新たな人の流れ、スポーツ文化の発展などまちづくりに大きく寄与するものであります。

これは、未来に向けてのまちづくり「究極の地方創生」と考えております。2023年開業までには、乗り越えなければならないハードルが多々ありますが、北海道そして北広島市の公共財である、北海道日本ハムファイターズと共に、ボールパークを核としたまちづくりを進め、そこからもたらされる価値と機会を多くの方々に感じていただけるよう全力で取り組む覚悟であります。

職員のみなさん、夢の実現に向けての新たなスタートが切れました。全職員の知恵を結集し、そして、何よりもこのような素晴らしいプロジェクトに関われることに喜びを感じ、ボールパーク構想を北海道日本ハムファイターズと協働して、アジアナンバーワンのボールパークの実現に向かって頑張りましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月11日（水）

**担当者** 副市長 道塚 美彦

おはようございます。副市長の道塚です。

平成30年度も10日ほど経ち、職場も少しずつ落ち着きを取り戻してきているのではないかと思います。

長年にわたり、貢献を頂いた方々が退職をされましたが、新たに大きな希望を胸に私達と一緒に仕事をする仲間を迎え、これから職員皆さんの力によって、さらなる北広島市の発展を願うところであります。

さて、私も副市長になって5年目を迎えておりますが、様々な業種の方々とお会いする機会が多くあります。

そこで感じることは、私たち公務員の視点や発想と民間などの方々の視点や発想の違いです。それは、どちらが良くて、どちらが悪いということではありません。お互いに良い面があり、また悪い面があると思っています。

しかし、この視点や発想の違いがあるということをしつかりと感じ、理解できているかどうかということで、仕事の質や広がり、そして行動が大きく変わってくると思います。

その違いを理解するためには、多くの方々と交流したり、色々な経験をしたり、また読書をしたり、学び続けることが大切です。どうか、学ぶことで深い理解力と洞察力を身に着け、広い視野で物事を考え、判断できるようにして頂きたいと思います。

3月26日にボールパークが北広島市に内定をしましたが、遡ること50年前の昭和43年には、道内3番目の大規模道営団地として「北広島団地」が指定決定されています。このことは、明治17年に和田郁次郎さんをはじめとする広島県人が、このまちを拓いてから最も大きな出来事であったと思います。この指定決定により、村から町になったばかりの当時の広島町は、定住人口が大幅に増加し、平成8年の市制施行に繋がりました。

そして、今、進めようとしているボールパークは、定住人口や交流人口の増加のみならず、北海道の将来までも担うことのできるビックプロジェクトであります。

職員の皆さんには、50年前、このまちの発展のために尽力された先人のように、情熱と英知をもって北広島市、そして150年を迎える北海道の未来を切り拓いて頂きたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月12日（木）

**担当者** 教育長 吉田 孝志

おはようございます。教育長の吉田です。

本日は、「上善如水」（じょうぜん みずのごとし）という老子の言葉から、市役所の職員として参考となる視点についてお話をさせていただきます。

まず、「上善如水」と聞きますと、新潟県（白瀧酒造）のお酒を思い出す方がいらっしゃるかもしれません。「上善如水」とは、本来、老子の言葉でありまして、老子は、「上善」とは理想的な生き方を意味し、理想的な生き方とは「水のような特徴」を身に付けることだと教えているのです。では、水の3つの特徴を通してお話を進めてみたいと思います。

水の特徴の一つ目として、「柔軟さ」が挙げられます。

水は、四角い器に入れば四角く、丸い器に入れば丸くというように、容れ物によって形を変えて少しも逆らわない、相手によって変幻自在であります。

私たちは、市民の皆様をはじめ、いろいろな方々との関わりの中で仕事をしています。しかし、その応接に当たって、自分の物差しだけで相手の話を聞き、判断したり、相手を自分の物差しに合わせようとしたりすることはないでしょうか。

それが、相手を不愉快にさせたり、相手が誤解を招いたりすることにもなりかねないと、私達職員は自戒する必要があると思うのです。私達は、しっかりとした考えや方針を持ちつつも、「水の如く」、どんな相手に対しても適切に、気持ちよく対応できる、「柔軟さ」「懐の広さ」を持ちたい、心がけたいものです。

水の二つ目の特徴として、「謙虚さ」が挙げられます。

水は、地形に逆らわず、低い所へ低い所へと流れて行きます。つまり、謙虚であり、自らの能力や権限等を誇示して、自分を良く見せようとしたりはしません。ところが、人は立場が変わると、凶らずも威圧的な態度を取ってしまうことがあります。また、自分を過大に評価し、他者を過小評価してしまったりすることも、ままあるものです。

私達は、水の性質から、他者に対して「常に謙虚に接する大事さ」を学びたいものだと考えています。

三つ目には「意志の強さ」が挙げられます。

水の流れは、堅い岩をも打ち砕く強い力があります。一滴、一滴の力もさることながら、それらが集まって大河となり、自らの道を切り開いていきます。

つまり、例え、どんなに困難なことがあっても、「信念を持ってやり遂げよう」と努力すれば、成し遂げられるという意味にも通じます。上杉鷹山の、「成せばなる。成さねば成らぬ何事も。成せぬは、人の成さぬなりけり」という言葉に相通じているようにも感じます。

「水には、私達の人生にとって学ぶべき特徴が存在する」というのが、老子の教えるところであると思います。今回は、市役所職員として職務を遂行する際には、老子の「上善如水」の考え方を実践してみたいと思います。お話をさせていただきました。

気持ちのよい挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月13日（金）  
**担当者** 企画財政部長 川村 裕樹

おはようございます。企画財政部長の川村裕樹です。

平成元年に入庁し、30年目を迎える自分にとっては、節目の年となりました。企画財政部の素晴らしいスタッフに支えられて、前に前にと向かって進んでいる現在ですが、最近の業務を通して感じたことをお話しいたします。

それは組織力とチーム力の大切さです。

一般的にチームワークを良く、風通しの良い職場環境をと研修等でも良く言われますが、多くの処理を行わなければならない業務や、窓口対応、答えの見えない将来をイメージして進める業務など、どうしても個々人の範囲の中で進められることが多いのも現実だと思います。

組織力は、市役所全体で皆さんそれぞれに与えられた職責、役割をその立場でしっかりと遂行し、部・課を超えて情報共有できるしっかりとした土台であり、チーム力は個々人でお互いをカバーしあう集合体で、目標に向かって進めるいわゆる一致団結だと実感しました。

これらの力を高めるには、まずスケジュール、業務情報の共有が一番大切だと思います。何をしているのかお互い見えない中で、声をかけることも難しく、その状況ではチーム力のアップは期待できません。

情報を共有し、日々の業務を朝のスタート時に毎日確認しあう、決められた時期までに着実に業務を遂行する、整理整頓、市章をつけるなど、これからも私自身、しっかりと取り組んでいきます。

市役所内で業務を進めていると対外的な評価はなかなか見えにくいですが、この度の北広島市政にとっても大きなプロジェクトであるボールパーク誘致決定の根本にあるのは、皆さんの日々取り組む真摯な業務姿勢と成果が様々なところで評価されたものだと実感しています。

私も部長として活気ある職場に向けて、組織力、チーム力を高め、自分にとって、どんな業務内容でも、自分の糧となるような意識で走っていこうと考えています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月16日（月）

**担当者** 総務部長 福島 政則

おはようございます。総務部長の福島政則です。

私は、今年、北広島市、当時の広島町に転居して35年目を迎えます。当時のわが町の知名度は、高くなく、道外の方は、もちろんのこと、道内の方でも、名前は知っていても、場所はわからない方がいらっしやったように記憶しています。

最近でも、特に道外の方との会話の中で、「どちらからいらっしやったのですか」「出身はどちらですか」と聞かれたとき、説明に苦慮する方がいらっしやったのではないかと思います。

そうした中、3月に、プロ野球・北海道日本ハムファイターズ・ボールパーク候補地が本市に内定いたしました。内定の歓びとともに、これまでのボールパークの誘致、内定に関するテレビ、新聞等の報道により、北広島市の知名度は、格段に高くなり、道内外の人々に知られるようになったと誇らしく感じています。

そして、このような環境の中で、市職員としてまちづくりに参加できることに感謝するとともに、改めて、市民の皆さんに「北広島に住んでよかった」「住み続けたい」と言ってもらえるよう、自分に与えられた役割を果たさなければと考えているところ です。

最後になりますが、総務部長として、職員の皆さんへのお願いです。

心身ともに健康であってこそ、市職員としての職務・職責を全うすることができ、充実した生活を送ることができます。日々の健康管理と適度な運動、定期的な健康診断の受診に心がけ、健康な体づくりに努めていただきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月17日（火）  
**担当者** 市民環境部長 高橋 直樹

おはようございます。市民環境部長の高橋です。

今年のスピーチも、自分の業務に関連する「交通安全」と「ごみ」についてお話ししたいと思います。

皆さんは、車に乗る時、シートベルトを着用していますか？

このような質問をすると多くの人は、もちろんですと答えると思います。

では、後部座席やタクシーに乗った時はどうでしょうか？

実は、道路交通法では、車の後部座席も含めて、全ての座席で、シートベルトの着用が義務付けられており、路線バスを除き、タクシーや高速バスでも着用が義務付けられています。

統計によりますと、運転席や助手席では一般道、高速自動車道のいずれも、ほぼ100%に近い着用率ですが、後部座席になると低くなり、高速自動車道では、70%程度、一般道では、さらに低くなり40%程度の着用率となっています。

シートベルトは、万が一、事故が発生した場合に、自分自身を守るだけでなく、座席からの飛び出しによる同乗者への被害を防ぐことにもなりますので、後部座席も含めて普段からシートベルトの着用を心掛けてください。

次に、「ごみ」について少しだけお話しをしたいと思います。

家庭から出されるごみの処理は、法律で市町村が行うことになっており、皆さんは、お住まいの市町村が定めた分別区分に従って、ごみステーションなどにごみを出していると思います。

多くの市町村では、ごみの分別区分が「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」に分かれています。北広島市では、「普通ごみ」、「破碎しないごみ」、「生ごみ」に分かれています。

なぜそのような分別区分になっているのかと言うと、北広島市では焼却施設を持っていないため、ごみを焼却処理することはせずに、埋立処理を行っているからです。

埋立処理は、維持管理経費を低く抑えることができますが、埋立容量に限られるため、安定的に処理するためには、埋立するごみを減らすことが必要となっています。

このため、生ごみをはじめ、容器包装ごみなど資源化できるものは分別をしていただき、また、昨年11月からは雑紙の分別も開始していますので、皆さんのご協力をお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいなく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月18日（水）

**担当者** 保健福祉部長 中屋 直

おはようございます。保健福祉部長の中屋です。

保健福祉部では、生活困窮・障がい・高齢者・介護・国保・年金・医療など、社会保障の制度に沿って組織と業務が分担されています。2階フロアは4月に入り、多くの来庁者があります。新庁舎が整備されたことにより、窓口も一列に配置され、プライバシーへの配慮など、戸籍窓口も含め、旧庁舎とは比べ物にならないほど、スムーズな対応ができているものと思っております。

保健福祉部の窓口では、相談内容が複合するケースが多く、来庁者には窓口を変わらずに、それぞれの担当職員が移動するなど、課を超えた部内の連携を図りながら窓口対応を行っているところであります。

今、福祉の分野では「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けて」ということで、福祉ニーズの多様化、複雑化を踏まえ、多くの機関の協働による「包括的な支援体制の構築」が進められています。その中でも制度・分野の縦割りを越えた各相談機関の連携と強化が重要となっており、これにより単独の相談機関では十分に対応できない、いわゆる「制度の狭間」や複合的な課題の解決を図ろうとするものであります。市役所も同様にたくさんの窓口があります。相談の内容によっては、対応している職員の担当する業務以外に相談が展開する場合もあり、どこの窓口案内すればいいのか、戸惑う場面もあるかと思えます。保健福祉部以外の窓口で福祉に関連する相談があった場合に、迅速かつ適切に福祉の各分野、窓口への「つなぎ役」として担当の皆さんに対応していただき、問題の早期発見、早期支援につなげて行きたいと考えております。今後、窓口を担当している職員（非常勤職員も含め）を対象に、勉強会の開催を予定しており、職員間の情報共有と市民サービスの向上を図ってまいりたいと思っておりますので、その際には、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月19日（木）  
**担当者** 子育て支援部長 仲野 邦廣

おはようございます。子育て支援部長の仲野邦廣です。

先日、市内の各保育園を回らせていただき、お話を聞いたところ、保育士の確保に大変苦慮していることをお聞きしました。少子高齢化といわれる現在、女性の就業率が年々増加しており国の労働力調査によると子育て世代の25歳から44歳の女性の平成28年の就業率は72.7%となっていることなどから待機児童が増加しており、厚生労働省の発表によると全国の待機児童数が昨年10月1日時点で55,433人となり、前年より7,695人増えたとの報道がありました。現状では、定員枠は空いていても保育士が足りないため子どもの受け入れができない施設や、保育士不足から休園となった道外の施設もあり、保育士不足が深刻化しています。一方、保育士資格を持ちながら保育に関係した職場に就労していない潜在保育士は全国で70万人以上とも言われています。このようなことから、保育士確保対策は本市においても喫緊の課題となっています。そのため本市では、保育士確保対策として、本市独自に市内の保育所などの施設で就労を希望する方を支援するための保育士等人材バンクや保育士への復帰を支援するための保育士復帰支援研修を実施するとともに、今年度から市内事業所で従事する人材確保を目的として、就労支援金の交付などを行う福祉人材確保対策事業も始まります。また、北海道社会福祉協議会では、保育士資格の新規取得者の確保、保育士の離職防止、保育士資格を有する方の再就職支援等を図るため、条件付きで返還免除を行う貸付制度を行っています。保育士資格を持っている方は、ぜひこのような制度を利用して子どもたちの笑顔のために働いてみませんか。お待ちしております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。



**放送日** 平成30年4月20日（金）

**担当者** 建設部長 駒形 智

おはようございます。建設部長の駒形です。

建設部では道路や橋梁、公園、市営住宅など、市内の社会基盤の整備やそれらの維持管理、冬期間の市民生活の確保のための市道等の除雪、生活に潤いと安らぎを与える緑を守り育てる緑化推進事業などのほか、国や北海道が当市において整備を進めております建設事業に係る連絡調整など、市民の皆様の日常生活を支えるための業務を主に行っております。

私はこれらの業務を円滑に進めるためには部内外での「報告・連絡・相談」の励行による情報の共有が大切であると考えておりますが、もう一つ心掛けるようにしていることがあります。その1つ目は「はい」という素直な心、2つ目は「すみません」という反省の心、3つ目は「私がします」という奉仕の心、4つ目は「おかげさま」という謙虚な心、5つ目は「ありがとう」という感謝の心、これは「日常の五心」と言われているもので、若いころ雑誌を読んでいてなるほどと思いその時から心掛けるようにしている心というか気持ちであります。

しかし、常にこのような気持ちで人と接することは難しいことではありますが、皆さんも職場内はもとより市民の皆様と接する際には、これらの気持ちを持ちながら接していただくことが、良好な人間関係を築く一助になるのではないかと考え、今回お話をさせていただきました。

また、一昨年より、誘致活動を展開してございました北海道日本ハムファイターズの新球場建設を含めたボールパーク構想につきましては、本年3月26日に正式に北広島市を候補地に選定することの決定をいただいたところであります。

今回の日本ハムグループが計画しておりますボールパーク構想は市長、副市長ならびに他の部長さんからもお話がありましたが、本市が総合計画において目指している「希望・交流・成長都市」の都市像の実現に大きく寄与すると共に、北海道の経済に与える影響は多大なものであると認識するところであります。

今後は既存の事務事業を進めながら、ボールパークの正式決定、施設整備に向けて、小さな町の大きな挑戦が始まります。克服して行かなければならない様々な困難が予想されますが、庁内の各部局が連携を図りながら職員皆さんの英知を結集し、夢に向かって一丸となって頑張りましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう

**放送日** 平成30年4月23日（月）

**担当者** 経済部長 水口 真

おはようございます。経済部長の水口真です。

年度の始まりは、黄色い帽子を被った双葉小学校の児童、制服が少し大きめな広葉中学校の生徒とすれ違い、その様子を伺いながら通勤しています。今年は小学校1年生に、先に挨拶されることが多いように思います。

地域でも職場でも挨拶を大切にする大人・管理職でありたいと思います。

今年度経済部は、「地域経済の活性化」に取組み、活気ある産業のまちづくりを進めるため、農業・商工業・観光・企業誘致分野の施策を展開してまいります。

重点的な取組みとしては、輪厚工業団地の完売に向けた企業誘致活動や農業者が生産物の加工・流通販売を一体的に行ったり、商工業者と連携して事業を展開する六次産業化に向けた支援、本市に滞在し、農業体験や市民との交流を楽しむグリーンツーリズムの推進など産業振興に取組みます。

また、最近の道内企業の雇用状況には、人手不足感が、1990年代のバブル期を上回っているとの報道があります。実際に接する企業の方々からも、幅広い業種で人員の確保に苦慮している話をお聞きします。労働力不足の対処としては、ITの活用などによる省力化や高齢者や専業主婦など潜在労働力の活用、外国からの移入が挙げられます。雇用対策を通して、高齢者や女性、外国人労働者など多様な人材が活躍できる社会づくりに取組みます。

平成29年度市民満足度の結果では、本市について改善すべきと感じるところの設問に対する回答として、買い物や娯楽の充実度が多く選択されました。買い物環境の実態を把握し、市民が求めるコンビニエントな生活はどこまでであり、それをどこまで行政が支援するか経済部の考え方を整理してまいります。

さて、人の幸福度は、日本では年齢が上昇するにつれて下がり、再びは上がらない傾向にあり、これに対し外国では、高齢に近づくると再び幸福度が増してくるという調査結果があります。

日本人は、高齢に入る時の考え方の転換、新たな目標を見つけることが上手ではないことが、高齢者の幸福度が低い要因と言われます。

野球を通して人と人が交流するボールパーク構想は、北海道民にとって、新たな生活概念・目標を生み出すものとなると思います。

経済部は、ボールパーク構想実現に向けた活動と、同時に、市民の安全で安心な生活を支える施策を進めてまいります。

最後になりますが、近隣石狩市さんの情報です。

4月27日（金）に、石狩市厚田区国道231号線沿いに、道の駅「あいろーど厚田」がオープンします。

ゴールデンウィークに厚田に桜を観に行きながら、一休みする計画はいかがでしょうか。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月24日（火）

**担当者** 水道部長 藤縄 憲通

おはようございます。水道部長の藤縄です。

今日は仕事をする上での「イメージ」についてお話したいと思います。

皆さんもご存知のとおり、去る3月7日に札幌市の清田区で大規模な断水事故がありました。北広島市からも応急給水のため職員を派遣しましたが、実際の災害応援を経験することで大変多くのことを学びました。一方、札幌市の対応で特に印象的だったのは、情報管理の面で事故の状況と応急給水についての情報提供が遅れたことにより、水道局へ電話が殺到し、その対応に人員を裂かれたことで他の行動が遅れたように思います。

ここで我々が教訓とするのは、広報の遅れがまずかったということではなく、災害や大規模な事故など経験したことの無い事態に直面した時、その行動や決断による結果を「イメージする」ことがとても大切だということです。

話は変わりますが、本市がボールパーク建設候補地に決定いたしました。このボールパーク建設事業は、我々、市役所職員の誰もが経験したことの無い一大事業です。そして、失敗が許されない事業でもあります。

そのような事業に取り組むとき、誰もやったことがない、前例がないから分からないではなく、自分たちが描く「イメージ」を実現するためには、どうすれば良いのかを考え、常にその準備をする、もし「イメージ」と違う結果になりそうであれば、その理由を考えて修正して行動することが大切だと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいadak大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月25日（水）

**担当者** 会計室長 佐々木 伸

おはようございます。会計室長の佐々木 伸です。

新年度が始まり、はや 25 日となります。そろそろ業務が落ち着いてきた頃だと思いますが、各支出命令権者におかれましては、支出負担行為の時期と内容、債務の履行関係書類の確認を充分行ったうえで、支出命令を発していただくようお願いいたします。

さて本日のスピーチは、ちょっと変わった視点でお話しさせていただきます。現代の経営の神様と言われる「稲盛和夫」さんの経営哲学的視点で BP 構想の候補地に内定した本市の職員として今感じることについてです。

ご存知の方も多いと思いますが、稲盛さんは京セラを創業し、携帯電話ブランド au の KDDI を立ち上げ、通信の独占に風穴を開け、破綻した日本航空を再生させた経営手腕が、国内外で高く評価されています。

そんな稲盛氏が、今の日本の経営社会に警鐘を鳴らしています。それは、円安を背景に日本の製品が海外で売れ、経営も順調にいつている会社も少なくない。全体的に景気が良くなった感が漂い、何となく上手くいつているという状態が、実は非常に危険だと言っています。具体的に言うと、他動的な力で経営が上手くいつてしまうのは非常に危険で、自分たちで努力をしてきて、現在のいい経営状態を作り上げてきたのか？という根源的な哲学を持っていないといけないということです。

易きにながれるのではなく、調子がいい時こそ、逆風が吹きだしたときでも耐え得る、より強い経営体質を作ることが重要で、そのためにあえて苦しい改革を続けなければならぬとも言っています。経営を順調に進めるためには、トップである社長の才覚だけでは上手くいかず、経営者マインドを持った社員を多く作ることに力を注いだこと、彼が経営者として追及してきたことは、それに尽きるとも言っています。

私は、企業の経営やガバナンスの根幹について非常にシンプルに表現されていると感じました。地方行政という環境は違いますが、組織の一員として、この稲盛氏の経営哲学は大変参考となるもので、自分の業務に向き合う姿勢を自問させられ、襟を正される思いがしました。

北広島市は今、アジアナンバーワンを目指す BP 構想の候補地に内定しました。球団はもとより北海道とも連携しながら、誰も経験したことのない大プロジェクトが始まろうとしています。裏を返せば BP 構想に限らず、これからの北広島市の一挙手一投足が良くも悪くも、様々な人から、更には日本全国、アジア圏域からも注目されていくということです。私たち職員一人一人が、その覚悟を持って業務に当たらなければいけないということです。

船出に例えるならば、大海原を目指し船はもう港を離れています。これから先の航海は、晴天ばかりは続きません。大嵐に見舞われる場面もあるかもしれません。前人未踏の大航海を乗り切るために、北広島号のクルーとして各職員の知恵を結集し、慢心せず弛まぬ努力を重ね、組織力を高めなければいけないと思います。また、私自身も含め各組織の幹部、管理職は、経営者マインドを持って、易きに流れることなく、それぞれの分野で強いリーダーシップを発揮していかなければいけないと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も 1 日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月26日(木)

**担当者** 議会事務局長 藤木 幹久

おはようございます。議会事務局長の藤木です。

朝のスピーチも、今回で3回目となります。

過去、2回のスピーチでは、「挨拶」について取り上げさせていただきました。最近、いろいろな機会を通じて、市役所の対応が良いとの声を、聞きます。

先日、私の家族から聞いた話として、知人が複数の手続きのために、市役所に来庁された際、窓口で、いくつかの部署の職員が連携しながら、面倒な手続きを親切、丁寧な対応をしていただき、大変うれしかったとの声を聞きました。このように職員への、市民からの感謝の声を聞きますと、そのたびに、私たち職員も、そして、今回のように話を聞いた家族までもが、うれしい気持ちになります。あらためて、この気持ちと、また感謝したい気持ちになりまして、皆さんにお伝えしたくなった次第であります。

さて、今回は、「挨拶」から、少し趣向を変えて、お話しさせていただきます。

市民やお客様に信頼される、満足されるための、「市役所」の備えるべき要件、大きなものの一つとして、人材といえますか、一人ひとりの職員の人間力、人の力が、大きな一つにあると、思っています。市民やお客様は、職員と接した際に、市役所、そして、その「まち」についてのイメージの一つのきっかけが、生まれると思います。また、市役所の中では、窓口で応対する職員、それ以外にも窓口の周囲にいる職員、庁舎内で見かける職員など、多くの職員の態度や言動などが、そのイメージに追加されて、インプットされるものと思います。

まさに、市役所、まちを代表しているのは、職員一人ひとりであるものと、思います。ある運送会社では、「運送会社を選ぶなら、ドライバーを見てから決めてください。仕事の品質がお分かりいただけます。」と堂々と宣言しているとお聞きしました。

人材、人の力が、その組織が進める、色々な部分で重要なポイントの一つになってくるということは、このたびのボールパーク候補地内定にもつながったのではないかと感じています。球団担当者が述べられた言葉「何をやるかも大切だが、誰とやるかが一番重要」という、この言葉が全てを物語っているものと、私の中に強く残っています。今回の誘致に関わった担当者を含め、多くの関係した職員の努力、気持ち、そして市民の熱意が伝わり、大きなものを動かしたのだと、強く感じています。

全国に注目され、市民に期待され、大きなまちづくりの転換期、チャンスを迎え、これからの高い目標の実現に向けて、職員一人ひとりが、自分の立場、役割をしっかりと自覚し、ワンランク、ツーランク、さらに上への、レベルアップした市役所を目指して、皆さん全職員とともに、進んでまいりたいと、思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成30年4月27日（金）  
**担当者** 監査委員事務局長 川合 隆典

おはようございます。監査委員会事務局長の川合です。

監査委員会は、市長部局から独立した執行機関となっており、第三者の立場で財政援助団体等監査、財務事務の執行等に関する定例監査、各会計の決算審査、現金の出納事務に関する例月出納検査などを行っています。

監査を行う際には、法令等に基づき適正に行われているかという適法性の観点、最少の経費で最大の効果を挙げているかという経済性の観点、社会情勢等の変化に対応した手法かという効率性の観点、初期の目的を達成しているかという有効性の観点など、主に4つの観点に配慮し実施しています。

しかし、昨年度の定例監査や財政援助団体等監査では、契約事務や補助金事務について、多くの部局で不適正な処理がありました。特に、契約事務においては、文書処理や会計処理の理解度が不足している様に見受けられました。中でも複数年にわたる契約事務である債務負担行為、長期継続契約、繰越事業等の理解度が低いと感じられましたので、職員の皆さんにはさらなる研鑽をお願いします。また、マニュアル、手引きやチェックリストに、最初から安易に頼りすぎているところもありました。もう一度原点に立ち戻って、地方自治法や当市の会計規則及び契約規則等の関係法令を理解して上で、なぜこのような項目が重要なのかを理解したうえで、活用してください。

最後になりますが、定例監査や財政援助団体等監査等での指摘された事項につきましては、その改善措置についての進捗状況などを確認させていただいておりますが、指摘事項につきましては、指摘された部・課だけの問題として捉えるのではなく、市役所全体の問題としてとらえていただくとともに、同じ指摘を受けることのないように事務執行をお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。